

5万分の1地質図幅「横須賀」

江藤哲人¹⁾・矢崎清賢²⁾・ト部厚志³⁾・磯部一洋⁴⁾

横須賀地域は南関東三浦半島の主要部を占め、地震予知のための観測強化地域に属します。第1表の層序総括表に示されるように、本地域は比較的新しい年代の新第三紀及び第四紀の地層で構成され、下位から葉山層群、三浦層群、上総層群、相模層群、上部更新統及び沖積層に大きく区分されます。それらの分布の概要が第1図の地質概略図に示されています。

これらのうち葉山層群は半島の中軸部を占めて西北西-東南東に2列、帯状に分布します。この葉

山隆起帯は、房総半島の中軸部から丹沢山地に連なる丹沢-嶺岡隆起帯に属するもので、三浦半島の骨格をなしています。葉山層群は垂直に近い急傾斜を示し、断層、しゅう曲、オリストストロームを伴って複雑な構造となっています。また、北列の葉山層群中には、蛇紋岩を主とする超塩基性岩の二次的岩体が直線状に点在するなどの特徴があります。

三浦・上総・相模の各層群の構成及び構造は、葉山隆起帯を境にして、北部・中部・南部地域とで

第1表 三浦半島地域の層序。P: 浮遊性有孔虫化石帯 N: ナノ化石帯。

地質年代		P	N	中部・北部地域		層厚 (m)	南部地域 (層厚)
第四紀	完新世			沖積層		55	沖積層
	更新世	後期		相模層群	小原台砂礫層	2	三崎砂礫層 (15)
		中期		横須賀層	走水礫部層 大津砂泥部層	25 30-50	小原台砂礫層
		前期		上総層群	(富岡層・中里層) 小柴層・大船層	(325 ~670)	宮田層 (190)
第三紀	鮮新世	後期	N22	野島層	200 ~320	林層 (25)	
		前期	N21	浦郷層	220		
		前期	N19	三浦層群	池子層 主部	150 ~400	初声層 (200-500)
	前期	N18	神武寺部層 鷹取山部層				
	中新世	後期	N17	葉山層群	豆子層 主部	1,000 ~1,500	三崎層 (850+)
		中期	N14		田越川部層 下山口部層	50	
前期		N6	矢部層	650			
			衣笠層	1,800			
			大山層	1,900			
			鐙摺層	280 ~570			
			立石部層				
			森戸層	800+			

1) 横浜国立大学
 2) 元所員 (燃料部)
 3) 香川大学 (現新潟大学)
 4) 地質調査所 北海道支所

キーワード: 地質図, 横須賀, 三浦半島, 葉山



写真1 森戸層の岩相(葉山町堀内, 森戸海水浴場北側)。硬質泥岩に軽石質細粒凝灰岩を挟む。垂直ないし南西に逆転する。手前が南側。

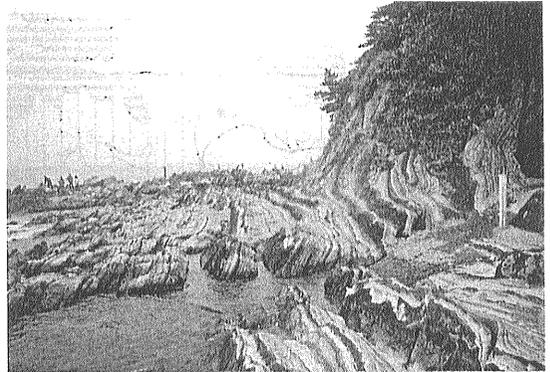


写真2 三崎層の岩相と海食台(横須賀市長井6丁目, 荒崎)。

台砂れき層は下末吉ローム層上部以上, 三崎砂れき層は武蔵野ローム層以上のローム層によって覆われています。

沖積層は, 平作川等4つの河川沿いの低地を中心に基底の陸成堆積物, 中部の縄文海進に伴う内湾の泥質堆積物及び上部の後背湿地堆積物と, 金田湾等の沿岸域における砂堆・砂丘・海浜堆積物ないし波食台を被覆する薄い砂質堆積物からなります。沖積層の厚さは上述した河川等で30m以上と厚く, 特に平作川下流では本地域で最も厚く50m以上に達します。

活断層として, 本地域には北から南に, 衣笠断層帯, 北武断層帯, 武山断層帯, 南下浦断層が知られています。衣笠断層帯は断層変位地形がやや不鮮明ですが, そのほかは活断層であることが確実な断層(確実度Ⅰの活断層)とされています。また, 武山断層南東端部の南側には, 1923年(大正12

年)の関東大地震の際に下浦地震断層が出現しています。

石材では, かつて鷹取山地域の鎌倉石と横須賀市佐島地域の佐島石が採石され, 石垣や土台石として使用されていましたが, 現在はいずれも採石されていません。

現在利用されている温泉・鉱泉は, 横須賀市域に5カ所, 三浦市域に1カ所です。これらのうち1カ所が30℃, そのほかは19℃以下の温度です。

斜面災害に関して, 本地域では大雨時を中心に崖崩れがこれまでに多数発生しています。地すべり性堆積物も分布し, いずれも平作川以北の逗子層主部の風化しやすい泥岩からなる山地・斜面にあり, 崖崩れの多くもその地域で発生しています。また, 沖積低地では液状化・噴砂が, 1923年の関東大地震や1987年の千葉県東方沖地震により発生したことが報告されています。